

イ 重要な種、個体群及びその生息地

ア) 調査事項

調査地域に生息する重要な動物の確認地点、個体数、行動等とした。

イ) 調査範囲

現地調査の範囲は、「ア 動物相」と同じ範囲とした。

ウ) 調査方法

現地調査の結果を踏まえ、学術上または希少性の観点から、表5-2-1-10-37に示す選定基準に該当するものを、重要な動物として抽出した。

表5-2-1-10-37 重要な動物の選定基準

番号	選定基準	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)	天然記念物 特別天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)	国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 緊急指定種
③	「環境省 第4次レッドリスト」(平成24年、環境省) に記されている種	絶滅(EX) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧種 I A類(CR) 絶滅危惧種 I B類(EN) 絶滅危惧種 II 類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館) に記されている種	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A類 絶滅危惧 I B類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 不明種 絶滅のおそれのある地域個体群

エ) 調査結果

a 哺乳類

重要な哺乳類として、1科1種が確認された。抽出結果は表5-2-1-10-38に、確認状況及び一般生態は、表5-2-1-10-39に示すとおりである。また、確認位置は、図5-2-1-10-13(1/2)～(2/2)に示すとおりである。

表5-2-1-10-38 重要な哺乳類一覧

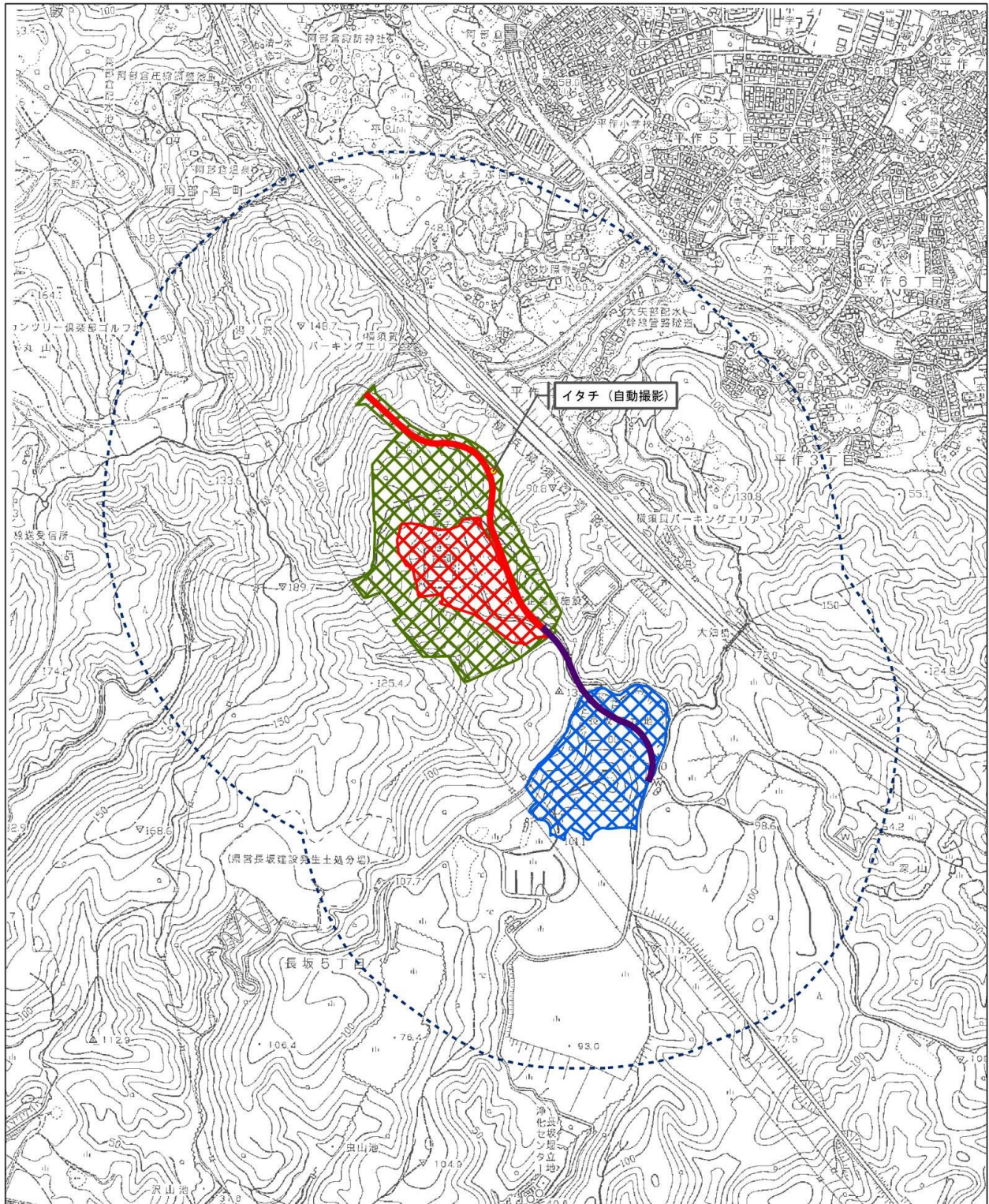
番号	科名	和名	選定基準			
			①	②	③	④
1	イタチ	イタチ				準絶滅危惧
合計	1科	1種	0種	0種	0種	1種

注) 選定基準は、表5-2-1-10-37に対応する。

表5-2-1-10-39 重要な哺乳類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
イタチ	確認状況	夏季に、実施区域内（新規搬入道路）に設置した自動撮影装置で1個体が撮影された。 冬季に、実施区域の周辺で糞が確認された。
	一般生態	水辺環境を好み、水田・河川敷などを主な生息地とする。ネズミ・鳥・カエルなどを食べるほか、水にもぐつての捕食も行う。 本州～九州にかけて分布する。平野部から山麓まで県内全域に広く分布するが、密度は低いと考えられる。

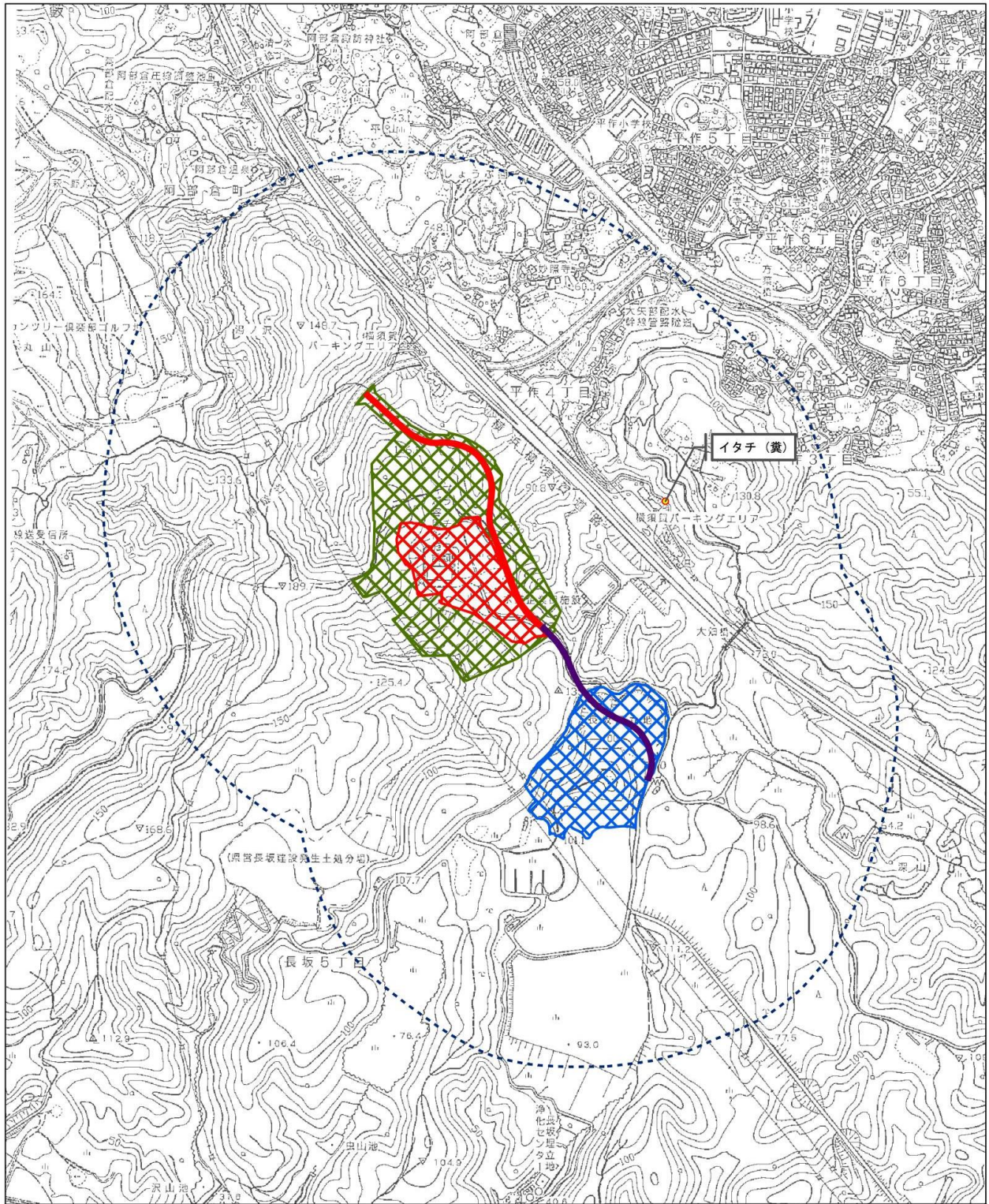
出典：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）



- 凡例**
- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 - : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
 - : 発生土処分場
 - : 調査範囲
 - : 新設搬入道路
 - : 既設改修道路
 - : 重要な種の確認地点
- ※ ()内の数字は確認個体数を示す。
- 注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。



図 5-2-1-10-13 (1/2)
重要な哺乳類の確認地点 (夏季)



- 凡例**
- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 - : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
 - : 発生土処分場
 - : 調査範囲
 - : 新設搬入道路
 - : 既設改修道路
- 重要な種の確認地点
- ※ () 内の数字は確認個体数を示す。
- 注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

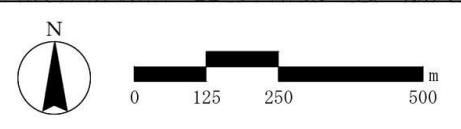


図 5-2-1-10-13 (2/2)
重要な哺乳類の確認地点 (冬季)

b 鳥類

重要な鳥類は、表5-2-1-10-37 (P. 428) に示す選定基準にしたがって抽出した。

抽出結果は、表 5-2-1-10-40 に、各種の確認状況及び一般生態は、表 5-2-1-10-41(1/10)～(10/10) (P. 433～442) に示すとおりである。また、確認地点位置は、図 5-2-1-10-14 (1/6)～(6/6) (P. 443～448) に示すとおりである。重要な鳥類として、21科32種が抽出された。

表5-2-1-10-40 重要な鳥類一覧

番号	科名	種名	選定基準				
			①	②	③	④	
						繁殖期	非繁殖期
1	カモ	オシドリ			DD	希少種	減少種
2	ハト	アオバト				注目種	注目種
3	サギ	ミゾゴイ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
4	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少種	—
5	チドリ	コチドリ				注目種	—
6	ミサゴ	ミサゴ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
7	タカ	ハチクマ				絶滅危惧Ⅰ類	—
8		ツミ				絶滅危惧Ⅱ類	希少種
9		ハイタカ			NT	情報不足	希少種
10		オオタカ		国内	NT	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
11		サシバ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	—
12		ノスリ				絶滅危惧Ⅱ類	希少種
13	フクロウ	フクロウ				準絶滅危惧	—
14	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	絶滅危惧Ⅰ類	希少種
15	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	—
16	モズ	モズ				減少種	—
17	キクイタダキ	キクイタダキ				希少種	—
18	シジュウカラ	コガラ				絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
19	ツバメ	ツバメ				減少種	—
20	ウグイス	ヤブサメ				準絶滅危惧	—
21	ムシクイ	センダイムシクイ				準絶滅危惧	—
22	セッカ	セッカ				減少種	減少種
23	ヒタキ	アカハラ				減少種	—
24		ルリビタキ				絶滅危惧Ⅱ類	—
25		キビタキ				減少種	—
26		オオルリ				準絶滅危惧	—
27	セキレイ	キセキレイ				減少種	—
28		セグロセキレイ				減少種	—
29		ビンズイ				絶滅危惧Ⅱ類	—
30	アトリ	カワラヒワ				減少種	—
31	ホオジロ	アオジ				絶滅危惧Ⅱ類	—
32		クロジ				絶滅危惧Ⅰ類	減少種
合計	21科	32種	0種	2種	8種	32種	11種
						32種	

注) 1. 重要な種の選定基準は、表5-2-1-10-37(P. 428)に示すとおりである。

2. 「国内」は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)に基づく国内希少野生動植物種である。

表5-2-1-10-41 (1/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
オシドリ	確認状況	両生・爬虫類早春季調査において、実施区域の周辺『横須賀しょうぶ園』の池で1個体が確認された。
	一般生態	雑食性で水生昆虫や甲殻類、植物の種子などを食べ、特に秋から冬にはドングリを好んで食べる。繁殖は、水辺の樹林で行われ、繁殖期は4～7月。巣は樹洞や巣箱を利用し、抱卵、育雛は雌が単独で行う。 国内では、東北地方以北では夏鳥、関東地方以南では漂鳥、あるいは冬鳥である。 県内では、県北部や西部を中心として全域で冬鳥、または留鳥。
アオバト	確認状況	6月調査に、実施区域内（発生土処分場）及び実施区域の周辺を飛翔する3個体が確認された。 10月調査に、実施区域内（発生土処分場）及び実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	夏鳥として丘陵地から山地の森林に渡来し、一部は越冬する。主に樹上で樹木の芽や実などを採食する。大磯町照ヶ崎では群れで海水を飲みに来る習性が知られており、北海道や静岡でも報告されている。 国内では、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥または漂鳥として、北部のものは冬季には南へ移動する。県内では、丘陵地から山地の森林に夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。

表5-2-1-10-41 (2/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
ミゾゴイ	確認状況	<p>平成 25 年 5 月 1 日 18 時 30 分～20 時（日の入り 18 時 27 分）に実施した夜間調査において、ミゾゴイの鳴き声を確認した。鳴き声は、18 時 45 分から調査終了後まで断続的に聞こえ、調査終了後も鳴いていた。19 時頃、ミゾゴイの鳴き声とほぼ同じ付近からフクロウの鳴き声が聞こえた途端に鳴きやんだが、1 分ほど経過してから、再び鳴き始めた。</p> <p>確認推定位置付近の植生は、オオシマザクラ植林とアカメガシワやカラスザンショウ等が優占する高木林で、林床にアオキなどが生育している。また、沢沿い左岸側の一部に竹林やスギ植林がみられる。</p> <p>この谷へアプローチする林道はなく、普段は人が立ち入ることはないと考えられる。</p> <p>なお、同年 4 月 3～5 日にも鳥類調査を実施しており、この時には鳴き声を含めミゾゴイは確認されていなかった。</p> <p>繁殖の可能性については、鳴き声（さえずり）は、つがいが形成されるとそれ以降は鳴かなくなると考えられるため、5 月 1 日の調査時には、つがいはまだ形成されていないと推測され、繁殖行動も行われていないと考えられる。鳥類の調査はこの 5 月の調査をもって終了し、これ以降については鳥類の調査を行っていないため、この後のミゾゴイの繁殖について、判断はできないと考える。</p>
	一般生態	<p>夏鳥として、丘陵地から低山地のよく茂った広葉樹林に渡来し、4～7月に枝上に営巣する。沢沿いでサワガニ・カエル類などを好んで捕食する。</p> <p>国内では、本州から九州で繁殖する。</p> <p>県内では、夏鳥として渡来するが、繁殖の確実な記録はまれであり、春の渡りの季節の記録がほとんどである。</p>
ヒメアマツバメ	確認状況	<p>12月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。</p>
	一般生態	<p>市街地とその周辺に生息し、上空を飛び回りながら昆虫類を捕らえる。巣はコシアカツバメやイワツバメなどの古巣を利用することが多く、巣の入り口には羽毛を貼りつけるのが特徴である。</p> <p>国内では、関東以西の太平洋岸の地域に分布する。</p> <p>県内では、留鳥として平野部に局地的に分布する。</p>

表 5-2-1-10-41 (3/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
コチドリ	確認状況	6月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	主に夏鳥として渡来し、河川中流から下流にかけての河川敷に生息する。植物のまばらな砂礫地に好んで営巣するが、造成地や駐車場などを代替環境として利用することもある。 国内では、九州以北に夏鳥として渡来する。関東地方以西では少数が越冬する。 県内では、全域に夏鳥として渡来する。少数は冬期もみられる。
ミサゴ	確認状況	2月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が3例確認された。胸の模様などの特徴から少なくとも2個体が確認された。
	一般生態	大きな川や湖に生息し、空中高くからダイビングして魚を捕らえる。繁殖期には断崖の岩棚や、大木の上に巣を作る。 全国の沿岸部で局地的に繁殖し、冬期には漂行する個体も多い。 県内では、主に冬鳥として渡来し、沿岸部から相模川などの大きな河川や丹沢湖などの湖沼に生息する。
ハチクマ	確認状況	6月に、実施区域内（発生土処分場）及び実施区域の周辺を北東～東方向へ飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	夏鳥として5月頃に丘陵地や低山地の森林に渡来し、9月頃に渡去する。地上でクロスズメバチの巣を掘り出して幼虫や蛹を食べる特異な食性を持ち、生息痕跡としてスズメバチ類の巣盤が発見される。高木の枝上に営巣する。 国内では、北海道から九州で繁殖する。 県内では、ほぼ確実な繁殖例は県西部の1例だけであるが、県北部から丹沢山麓、大磯丘陵などで繁殖期の観察例があり、繁殖の可能性はある。
ツミ	確認状況	12月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が、2例が確認された。 2月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	夏鳥または留鳥として生息し、小鳥類を捕らえる。山地の樹林に生息する一方、都市公園や人家の庭などの小規模の都市緑地でも繁殖する。 全国で繁殖し、西南日本では越冬する個体もある。また、南西諸島には別亜種が周年生息する。 県内では一年を通して観察され、横浜市西部から小田急線沿線の地域での繁殖例が多い。

注) ミサゴ、ハチクマ、ツミについては、繁殖に係る行動は確認されなかった。

表 5-2-1-10-41 (4/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
ハイタカ	確認状況	12月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が2例確認された。
	一般生態	留鳥または夏鳥として、山地から丘陵地の森林に生息する。林内を飛翔して主に小鳥類を捕らえる。 国内では、四国以北で繁殖し、冬鳥として国外から渡来する個体も多い。 県内では主に冬鳥として渡来し、丘陵地から農耕地にかけて観察される。確実な繁殖記録としては、横浜市緑区の例があるだけである。
オオタカ	確認状況	10月に、実施区域内（発生土処分場）及び実施区域の周辺の上空を飛翔する1個体が2例確認された。 12月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が2例確認された。 4月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	留鳥として山麓から丘陵地の森林に生息し、主に中・小型の鳥類をとらえる。スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣することが多い。 国内では、北海道と本州で繁殖し、冬季は漂行する個体も多い。 県内では、平地から山麓にかけて留鳥として生息する。
サシバ	確認状況	5月に、実施区域(宅地の造成)と調査範囲を通過する1個体が2例確認された。
	一般生態	夏鳥として4月頃渡来し、丘陵地や低山地に生息する。特に谷戸地形を好み、ある程度以上の面積を持つ水田と樹林地がセットで存在することが生息のための条件となっている。高木の梢などを見張り場にしてエサを探し、水辺でカエルやヘビをよく捕らえる。スギ林などの高木の樹上に営巣する。 国内では、夏鳥として渡来し、東北地方から九州にかけて繁殖する。南西諸島では多くの個体が越冬する。 県内では、県西部の丘陵地などわずかな地域で繁殖しているのみである。秋の渡りの季節には横須賀市武山などで多数の個体が西に渡るのが観察される。

注) ハイタカ、オオタカ、サシバについては、繁殖に係る行動は確認されなかった。

表 5-2-1-10-41 (5/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
ノスリ	確認状況	10月に、実施区域内（宅地の造成、発生土処分場）と実施区域の周辺を飛翔する1～2個体が4例確認された。 12月に、実施区域内（宅地の造成）と実施区域の周辺を飛翔する1～2個体が10例確認された。 2月に、実施区域内（宅地の造成）、実施区域の周辺及びその周囲を飛翔する1～2個体が5例確認された。 4月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が2例確認された。
	一般生態	留鳥または漂鳥。森林で繁殖する。非繁殖期には、川原、農耕地のような草原的環境にも生息する。 国内では、北海道から四国で繁殖し、非繁殖期には全国で見られる。小笠原諸島に別亜種が周年生息する。 県内では、繁殖期には丹沢山麓から大磯丘陵にかけて、局地的に生息し、非繁殖期には全域の丘陵地から平地で見られる。
フクロウ	確認状況	10月の夜間調査で、実施区域内（宅地の造成）の林内から鳴き声の確認された。 4月の夜間調査で、実施区域内（宅地の造成）と実施区域の周辺の林内から鳴き声の確認されたほか、実施区域内（宅地の造成）で飛翔が確認された。 5月の夜間調査で、実施区域内（宅地の造成）及び実施区域の周辺の林内から鳴き声の確認された。
	一般生態	留鳥として平地から低山の大木のある林や社寺林などに生息する。夜行性で日中は薄暗い林などで休んでいる。夕方から活動を始め、樹林や農耕地などでネズミ類や鳥類、爬虫類、両生類などを捕食する。主に大木の樹洞に営巣するが、土の壁の横穴や人家の屋根裏、巣箱や人工構造物などもよく利用する。 国内では、留鳥として九州以北の平地から低山の林に生息する。 県内では、平地から低山の大木のある林に生息する。
ハヤブサ	確認状況	6月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。 4月に、実施区域の周辺を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	断崖のある海岸部で留鳥もしくは冬鳥として生息する。冬季には沿岸部や内陸部でも広くみられる。高速で飛翔し、空中で鳥類を捕食する。近年は都市部のビルや橋での繁殖例も散見される。 国内では、北海道～九州で繁殖し、冬期は沿岸部で広くみられる。 県内では主に冬鳥として渡来し、沿岸部や大河川沿いに観察されるが、内陸部に飛来することもある。

注) ノスリ、ハヤブサについては、繁殖に係る行動は確認されなかった。

表5-2-1-10-41 (6/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
サンショウクイ	確認状況	5月に、実施区域内（宅地の造成）を飛翔する1個体が確認された。
	一般生態	夏鳥として渡来し、明るい落葉広葉樹林に生息する。樹冠近くの枝にとまり、飛翔昆虫などを捕らえる。高木の枝先に椀型の巣を作る。 国内では、亜種サンショウクイが夏鳥として、本州から九州に生息する。 県内では、県北部、県西部、県中部の丘陵地に夏鳥として渡来する。
モズ	確認状況	10月に、実施区域内（発生土処分場）及び実施区域の周辺の樹上や開けた場所で1～2個体が11例確認された。 12月に、実施区域内（宅地の造成）及び実施区域の周辺の林縁や開けた場所で1個体が4例確認された。 2月に、実施区域内（宅地の造成）及び実施区域の周辺の林縁や樹上で1個体が2例確認された。 4月に、実施区域内（宅地の造成）で1個体が確認された。
	一般生態	低地の林、河原、農耕地、公園などで単独で生活する。昆虫類をはじめとした無脊椎動物や小型哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類などを食べ、はやにえを作る習性がある。ほぼ全国で繁殖し、積雪地の個体は冬期に暖地へ移動する。県内でも全域で見られるが、山間部での観察が比較的少ない。
クイタダキ	確認状況	2月に、実施区域内（発生土処分場）の樹上で3個体が確認された。
	一般生態	冬鳥として主に山地に渡来する。平地の林や公園などで見られることもある。 国内では、本州中部以北の山地で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。 県内では、丹沢山地で繁殖例がある。主に冬鳥として渡来し、平地の林や市街地の公園等でもみられることがある。非繁殖期に、カラ類と混群を形成する。
コガラ	確認状況	4月に、実施区域内(宅地の造成)でさえずりが確認された。
	一般生態	留鳥として山地の落葉樹林に生息する。非繁殖期には少数が平地でもみられることがある。他のカラ類と混群を作って移動していることが多い。 国内では、留鳥として九州以北に生息し、冬期は低山帯で漂行していることがある。 県内では、おもに県西部の山地に生息し、繁殖も確認されている。冬期は低山の雑木林などでもみられる。

注) 表中の確認個体数は、のべ数である。

表5-2-1-10-41 (7/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
ツバメ	確認状況	6月に、実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）と実施区域の周辺で1～2個体が4例確認された。 4月に、実施区域内（宅地の造成）で1個体が確認された。 5月に、調査範囲上空を飛行する1～8個体が4例確認された。
	一般生態	繁殖は人間の生活と密接に結びつき、人間が出入りする建物の軒下に、泥や草を唾液で固めた椀形の巣を作る。飛びながら飛行昆虫を捕らえる。 国内では、九州以北に夏鳥として渡来し、西日本では越冬する個体も多い。県内では全域の集落、都市に夏鳥として渡来するが、海岸沿いの地域や県央の一部では少数が越冬する。
ヤブサメ	確認状況	6月に、実施区域の周辺のハイキングコースの斜面林の林内で2個体が確認された。 4月に、実施区域の周辺の樹林内でさえずりが確認された。 5月に、実施区域の周辺でさえずりが確認された。
	一般生態	夏鳥として山地から丘陵地の下生えの茂った暗い林内に生息し、林床の湿ったところに多くみられる。林床の地上に営巣する。 国内では、夏鳥として屋久島以北に渡来する。県内でも、夏鳥として山地から丘陵地にかけて観察される。
センダイムシクイ	確認状況	5月に、実施区域の周辺の谷沿いの斜面からさえずりが確認された。
	一般生態	夏鳥として、丘陵地から山地の林に渡来する。昆虫類やクモ類を捕食する。渡りの季節には、都市公園や街路樹などでもみられる。 国内では、夏鳥として全国に渡来する。 県内でも、夏鳥として丘陵地から山地の林に渡来する。
セッカ	確認状況	12月に、実施区域の周辺の草地で1個体が2例確認された。 5月に、実施区域の周辺の草地で1個体のさえずりが確認された。
	一般生態	留鳥として河原や水田周辺の草原に生息する。草の間や地上で主に昆虫類を捕食する。草の茎や葉をクモの糸で縫い合わせて巣をつくる。 国内では、本州以南の平地から山地の草原、ヨシ原等で繁殖し、多雪地の個体は冬期に南下する。 県内では、留鳥として平地の全域でみられる。

表5-2-1-10-41 (8/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
アカハラ	確認状況	12月に、実施区域内（宅地の造成）の樹林内で1個体、実施区域の周辺の草地や林縁で2個体が確認された。 2月に、実施区域の周辺で2個体が確認された。 4月に、実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）と実施区域の周辺で3個体が確認された。 5月に、実施区域の周辺で1個体が確認された。
	一般生態	林内や林縁の地上部で落葉をはねのけながら、ミミズなどを捕って食べる。 国内では本州中部以北で繁殖し、非繁殖期にはおもに関東以南で観察される。 県内では、繁殖期は県西部の山地の落葉広葉樹林で少数がみられ、非繁殖期には平野部の広い範囲で観察される。
ルリビタキ	確認状況	12月に、実施区域内（宅地の造成）の樹上で1個体が確認された。実施区域の周辺では、林縁で1個体が確認された。 2月に、実施区域内（宅地の造成）の樹上で1個体が確認された。実施区域の周辺の林縁では、2個体が確認された。 4月に、実施区域内（発生土処分場）の林縁で1個体が確認された。
	一般生態	亜高山帯で繁殖し、冬期は平地から山地までの暗い林内でみられる。 国内では、北海道から四国の山地や亜高山帯に生息する。巣は林床の岩の隙間や木の根元などに造る。 県内では、丹沢や箱根山地の標高1,000m以上の山地で繁殖する。冬季には平地から山地の広い地域でみられる。
キビタキ	確認状況	10月に、実施区域内及びその周辺の樹林で延べ11個体が確認された。 5月に、実施区域の周辺でさえずりが確認された。
	一般生態	夏鳥として、山地から丘陵地のよく茂った落葉広葉樹林に渡来する。枝から枝に渡り林の中を飛ぶ虫を捕らえる。繁殖は、落葉広葉樹林、針広混交林で行われる。巣は枝の股、樹洞を利用して作る。 国内では、夏鳥として九州以北に渡来する。別亜種が南西諸島に周年生息する。 県内では、夏鳥としておもに県西部の丘陵地や山地でみられる。春や秋の渡りの季節には、平地の林や市街地の公園などでも観察される。

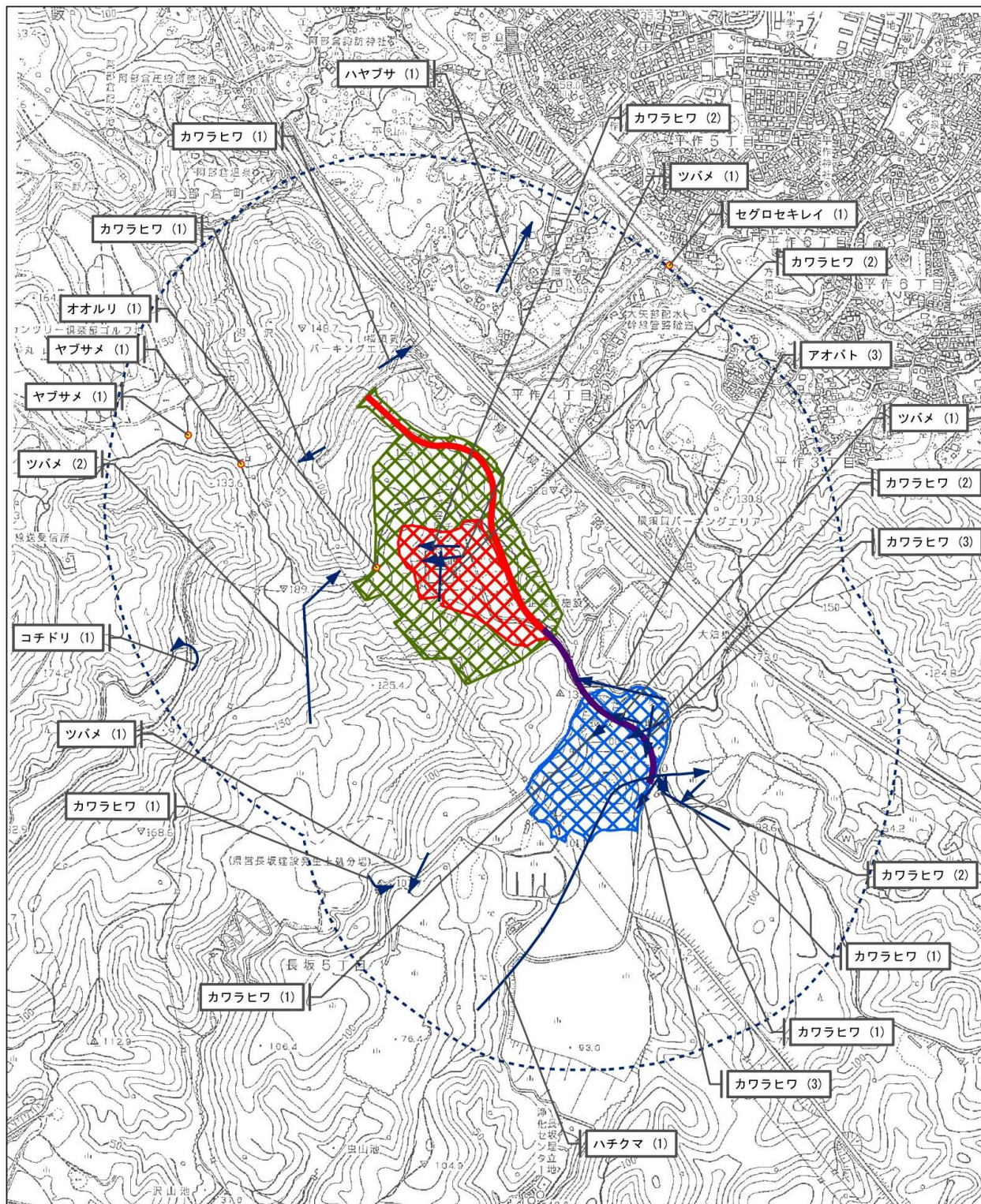
表5-2-1-10-41 (9/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
オオルリ	確認状況	6月に、実施区域内（宅地の造成）のハイキングコースの樹林内でさえずりが確認された。 5月に、実施区域の周辺でさえずりが確認された。
	一般生態	夏鳥として、山地から丘陵地の沢沿いの林に渡来する。繁殖は崖地や溪流近くの落葉広葉樹林で行い、岩または土の崖地に巣を作る。枝先から飛んで昆虫を捕らえる。国内では、夏鳥として九州以北の森林に生息する。県内でも、夏鳥として、箱根山地や丹沢山地、大磯丘陵、三浦半島などで繁殖するほか、平地でも繁殖が確認されたことがある。春や秋の渡りの季節には、平地の林や公園などでも観察される。
キセキレイ	確認状況	10月に、実施区域の周辺の水路沿いを飛翔している1個体が確認された。 12月に、実施区域の周辺で2個体が確認された。 4月に、実施区域の周辺で2個体が確認された。 5月に、実施区域の周辺で1個体が確認された。
	一般生態	平地から山地の川岸、湖沼、水田、農耕地に生息する。水生昆虫を捕食する。人家の屋根や橋桁等にお椀型の巣をつくる。国内では、北海道南部から九州までの平地から山地の河川に、留鳥または漂鳥として生息する。県内でも、留鳥または漂鳥として平地から低山の水路や河川、水田、農耕地でみられる。
セグロセキレイ	確認状況	6月に、実施区域の周辺の耕作地付近で1個体が確認された。 10月に、実施区域内（発生土処分場）で飛翔する2個体が確認された。実施区域の周辺では、川沿いで1個体が確認された。 12月に、実施区域の周辺の川沿いで1個体が確認された。 2月に、実施区域の周辺の川沿いや水路で1～2個体が5例確認された。 4月に、実施区域の周辺の池で1個体が確認された。 5月に、実施区域の周辺で1個体が確認された。
	一般生態	平地から山地の河川中流域の川岸や湖沼、水田、農耕地に生息する。巣は、川の土手のくぼみ、河原の石や流木の下、人家の石垣や屋根、瓦の隙間などに作る。国内では、北海道南部から九州までの平地から山地の河川に、留鳥または漂鳥として生息する。県内でも、留鳥として、平地から低山の河川付近でみられる。

表5-2-1-10-41 (10/10) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

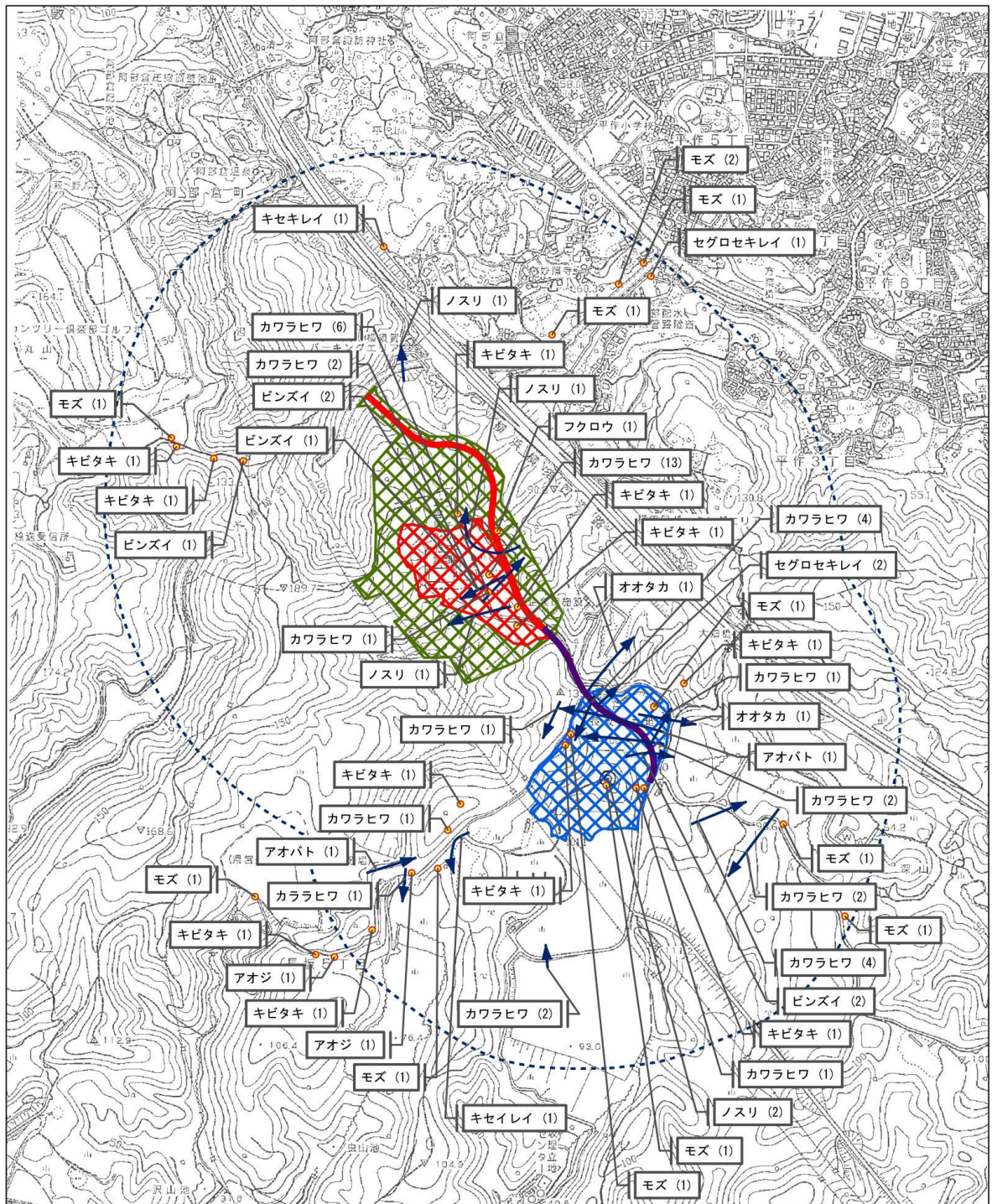
種名	項目	内容
ビンズイ	確認状況	10月に、実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）及び実施区域の周辺で樹上や上空で1～2個体が4例確認された。
	一般生態	草がまばらに生えた斜面で繁殖する。非繁殖期には、市街地の公園や海岸沿いのマツ林等、平地の広い範囲で観察される。昆虫類やクモ類を捕食する。 国内では、四国と本州中部以北の山地、北海道の平地から山地で繁殖し、冬は本州以南へ移動する。 県内では、繁殖期には、県西部の比較的標高の高い山地に生息し、秋から冬にかけては平地から低山で見られる。
カワラヒワ	確認状況	6月に、実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）及び実施区域の周辺で1～3個体が12例確認された。 10月、12月の調査において、実施区域内（宅地の造成・発生土処分場）及び実施区域の周辺で広く確認された。 2月に、実施区域の周辺で7個体が確認された。 4月に、実施区域内（宅地の造成）、実施区域の周辺で広く確認された。 5月に、実施区域内（宅地の造成）で2個体が確認されたほか、実施区域の周辺で3個体が確認された。
	一般生態	国内では、本州から九州にかけて留鳥、または冬鳥として生息する。 県内では、留鳥としてほぼ全域で見られる。繁殖記録は平野部に多く、山間部にはほとんど見られない。市街地、村落、道路付近などの林や独立樹などに営巣する。秋冬には、河原や農耕地で群れを作る。
アオジ	確認状況	10月に、実施区域の周辺の林縁の藪で2個体が確認された。 12月、2月、4月の調査において、実施区域及びその周辺の林縁や樹林内などで広範囲に確認された。 5月に、実施区域内（宅地の造成）で1個体が確認された。
	一般生態	国内では、本州中部以北の標高1,000mくらいの亜高山帯で繁殖し、冬期には南方や平地へ移動する。県内でも繁殖期にはごく少数が西丹沢や箱根の山地で見られ、箱根では繁殖の記録もある。非繁殖期には平地から低山の雑木林や農耕地、河川敷の草やぶ、人家の庭などでも見られる。地上で食物を求め、さえずる時は梢にとまる。
クロジ	確認状況	12月、2月の調査において、実施区域の周辺の樹林内で1～2個体が確認された。 5月に、実施区域内（宅地の造成）及び実施区域の周辺の藪で5個体が確認された。
	一般生態	丹沢山地で繁殖が確認されているが、個体数は少なく局所的である。非繁殖期には丘陵地や低山の林で見られるほか、都市公園や人家の庭でも記録がある。暗い林床の落ち葉をかき分けて、おもに草や木の実を食べる。

出典：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）



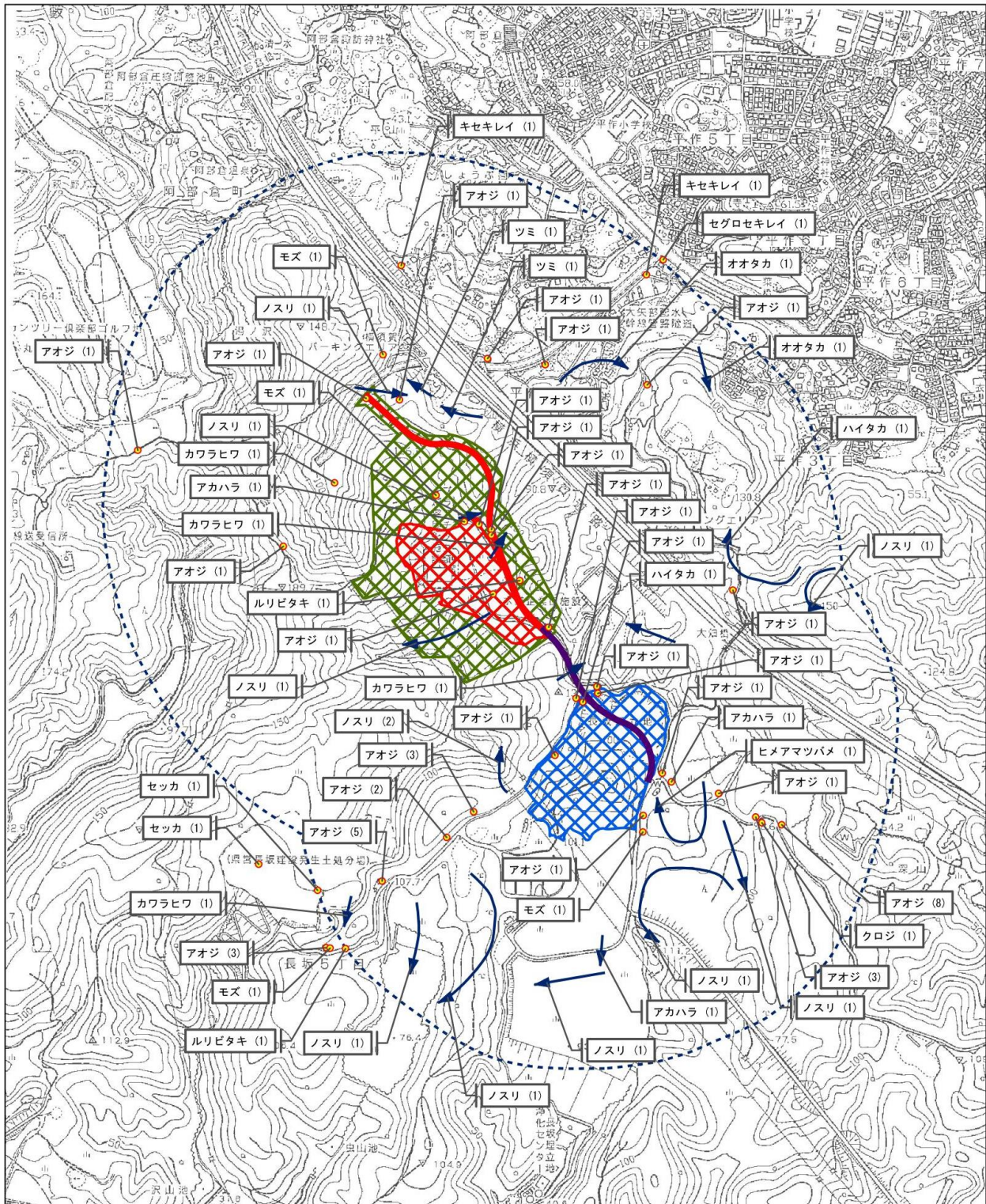
<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> : 重要な種の確認地点 : 重要な種の飛翔位置 <p>※ () 内の数字は確認個体数を示す。</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>	<div style="text-align: center;"> <p>N</p> <p>0 125 250 500 m</p> </div>
---	---	--

図 5-2-1-10-14 (1/6)
重要な鳥類の確認地点 (6月)



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> ● : 重要な種の確認地点 → : 重要な種の飛翔位置 : 重要な種の旋回上昇 <p>※ () 内の数字は確認個体数を示す。</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>	<p>N</p>
---	--	----------

図 5-2-1-10-14 (2/6)
重要な鳥類の確認地点 (10月)



- 凡例
- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 - : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
 - : 発生土処分場
 - : 調査範囲
 - : 新設搬入道路
 - : 既設改修道路
 - : 重要な種の確認地点
 - : 重要な種の飛翔位置
 - ※ () 内の数字は確認個体数を示す。
- 注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

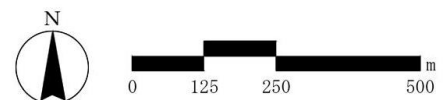
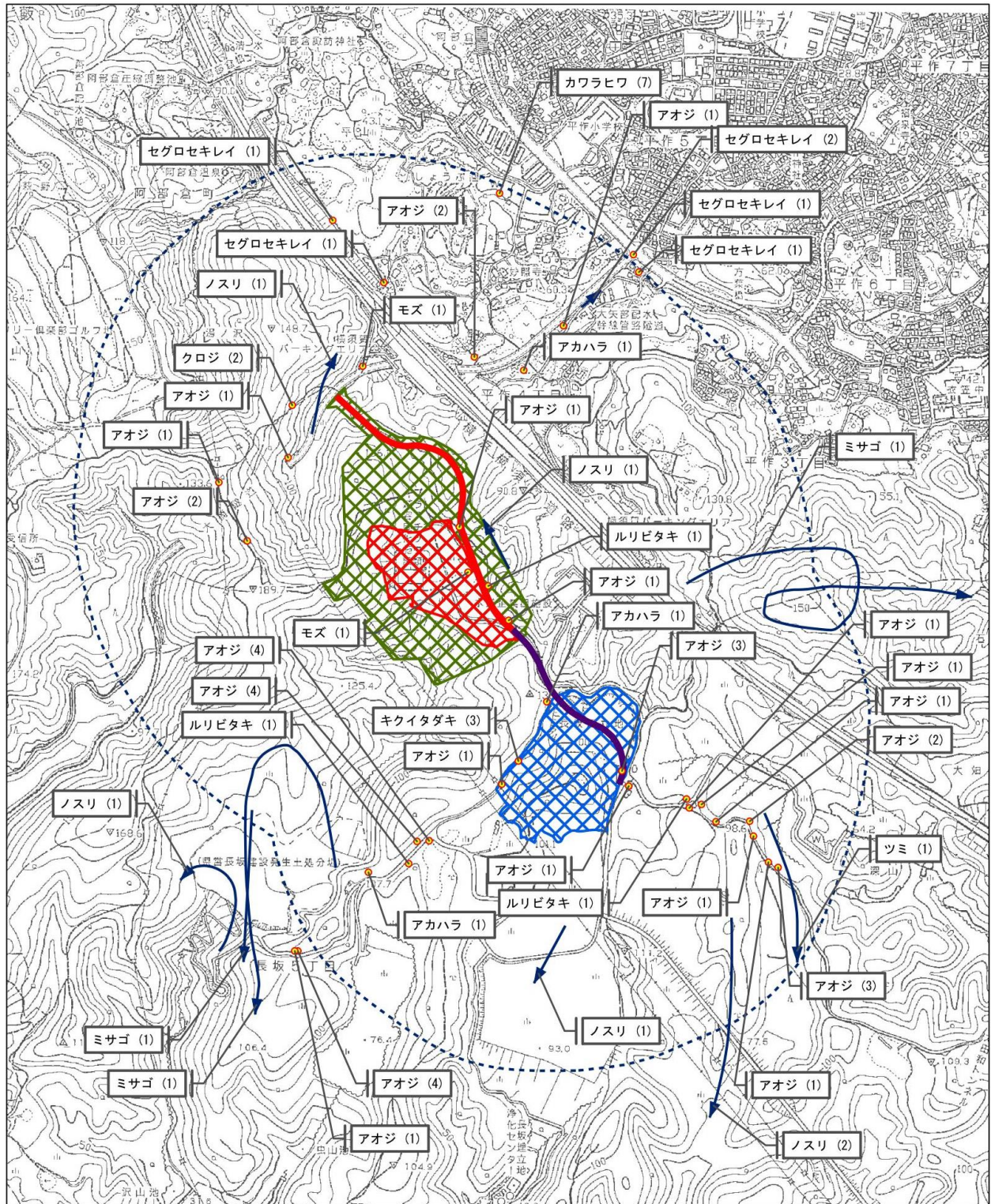










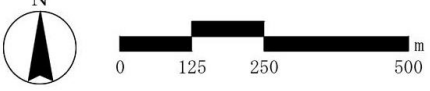
図 5-2-1-10-14 (3/6)
重要な鳥類の確認地点 (12月)



凡例

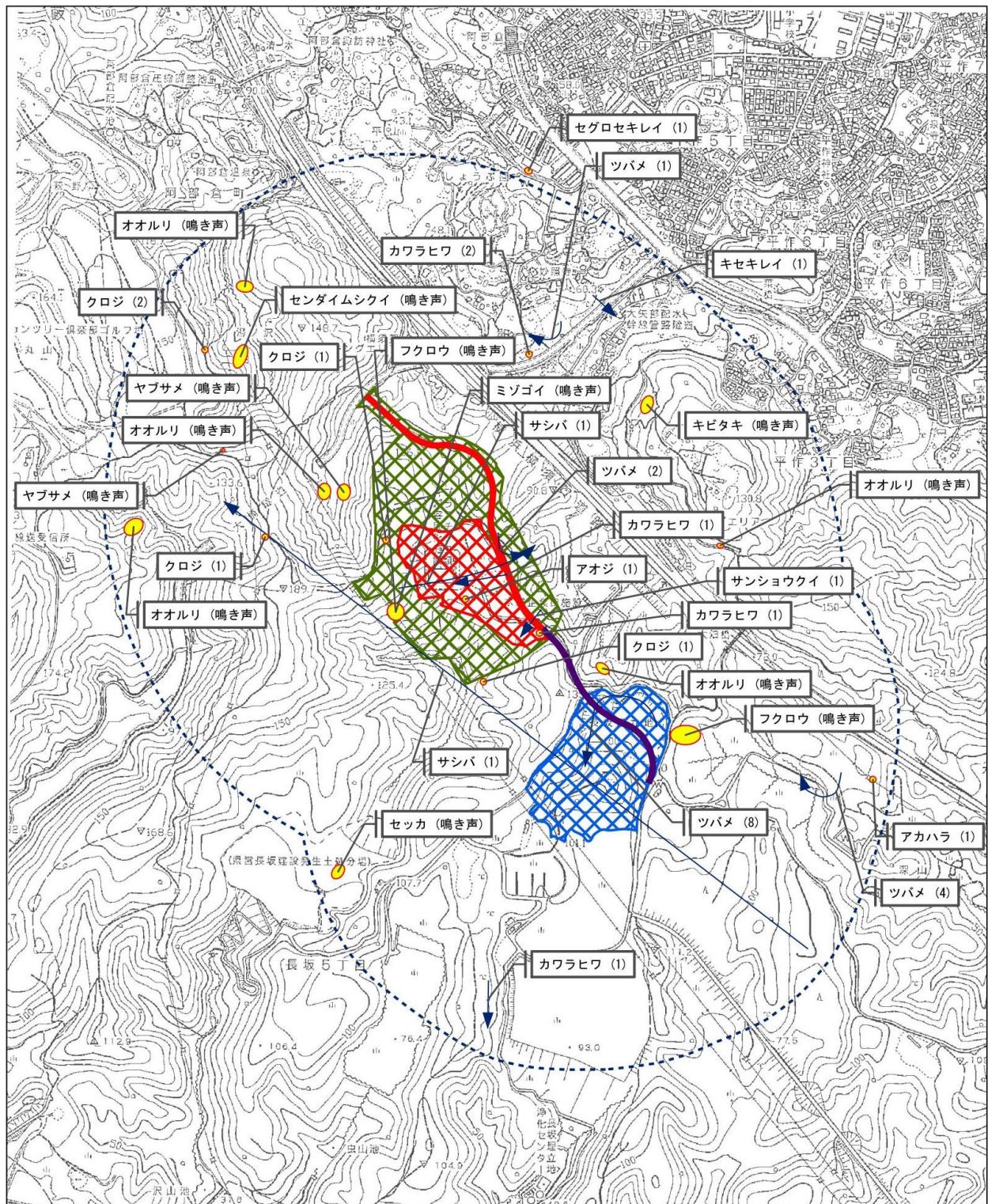
	: 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)		: 重要な種の確認地点
	: 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))		: 重要な種の飛翔位置
	: 発生土処分場	※ () 内の数字は確認個体数を示す。	
	: 調査範囲	注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、 搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される 法面等を含んでいる。	
	: 新設搬入道路		
	: 既設改修道路		

N



0 125 250 500 m

図 5-2-1-10-14 (4/6)
重要な鳥類の確認地点 (2月)



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> : 重要な種の確認地点 : 重要な種の鳴き声確認地点 : 重要な種の飞翔位置 <p>※ () 内の数字は確認個体数を示す。</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>	<div style="text-align: center;"> <p>N</p> <p>0 125 250 500 m</p> </div>
--	---	--

図 5-2-1-10-14 (6/6)
重要な鳥類の確認地点 (5月)